

# ひとりごと

## 「うどん」

研修生として東京に来てから丸3か月が経った。地元とこちらとでは、同じ日本といえども慣習や文化の違いが多々あって驚くことが多い。先日は、何の気なしにうどんを注文し、出てきたものを見て驚いた。——本当に黒い！

関東／関西でうどんのスープの色が濃さ違うという知識はあった。だが実際に「黒いうどん」を目にするのは初めて。これまで関西の澄んだお出汁のうどんしか食べたことがなかったので、カルチャー・ショックだった。「東京のうどんは美味しくない」なんて、関西ではよく聞くセリフでもある。先入観から初めのひと口にはちょっと勇気がいった。でも、食べてみたらこれがとても美味しい。拍子抜けすると同時に、少し大げさだけど「今、この瞬間に私の価値観が変わった」と感じた。

県教育委員会で働き始めて6年目。業務の進め方、仕事で関わる人たち、ランチでよく行くお店や仕事終わりに立ち寄るお店、頻繁に会って話す友達……。仕事の面でも生活の面でも、なんとなく固定化してきていた。自分で作り上げた過ごしやすい環境に満足し、新しいことに挑戦することもなくなっていたように思う。

それが、今回の異動で、知らない土地でゼロから自分の生活を作っていかなければならなくなった。「うどん」のように、毎日の様々なことがわたしの目には新鮮に映る。面白みを感じるけれど、変化ばかりで少し疲れてしまうこともある。そんなとき私を支えてくれるのは、自分と同じ境遇にある仲間である。

現在私は、同じく東京出向している20名ほどの県職員と一緒にアパート（職員公舎）に住んでいる。当初は上司や同僚と同じ建物に住むなんて気を遣うし嫌だと思っていたが、同じ境遇にあるので些細な悩みにも共感し合えるし、東京暮らしの先輩もおり、頼りになる存在が身近にたくさんいることを今では心強く思っている。最近は、休日ごとに一緒に東京観光に出かけるほどだが、このような交流を持つとは東京に来る前は想像もできなかった。

この3か月の間、日々、自分の世界が作り変わっていているという実感がある。派遣元に戻る頃には、また今とは違った自分になっているのだろうか。1年という短い期間ではあるが、貴重な機会を楽しもうと思う。

(U.N)

## 「教育委員会月報 令和5年7月号 No.885」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
- ・TEL:03-5253-4111 (代表)
- ・URL: <https://www.mext.go.jp>



文部科学省